令和８年度　第２回　静岡県立天竜高等学校春野校舎　学校運営協議会議事録

１　日時　令和８年 10 月 22 日（木）　午後２時から４時

２　場所　静岡県立天竜高等学校春野校舎　応接室

３　委員　佐々木　徹（浜松市春野支所長）
北野　昌宏（春野中学校校長）
田中　敏司（春野中学校区青少年健全育成会会長）
中田　宗男（同窓会会長）※御欠席
松本　常志（学校後援会会長）
中村　　剛（前ＰＴＡ会長）

４　議事録（要点）

(1) 校長あいさつ

(2) 議題

ア　防災体制及びその運用に関する助言指導

イ　春野校舎の魅力化について

(3) 学校の様子について（６時限目授業参観）

６限の授業（１～３年生の全教室）を参観した。

(4) 防災体制及びその運用について

全校生徒 55 名の通学・備蓄状況、気象警報発表時の対応基準、浜岡原発 UPZ 圏内生徒への指導、熊出没対策、浜松市避難所指定の確認等、９月に改定された防災管理マニュアル概要について共有した。近隣での熊出没を踏まえ、校内に熊撃退スプレーを常備し、風向きや使用法のシミュレーション・教職員の事前確認を行うよう提案した。

(5) 春野校舎の魅力化に関する意見交換

〇学校の強み・魅力の発信と広報活動（アピール方法）

・春野校舎の最大の目玉は「キャリアに向けた豊富な選択性」と「個に応じた丁寧な指導・支援」であるとし、発言者自身の専門学校での経験を踏まえ、オープンキャンパスを積極的に開催して教員や生徒の温かい雰囲気・魅力を直接見てもらうことや、学校側からの強力な情報発信が必要だと提案が出された。

・中学時代に不登校を経験し春野校舎で大きく成長した生徒が母校の中学校を訪問し、当時の担任や後輩に自身の成長や学校の魅力を直接語る機会を作ってはどうかという提案がなされた。

・「大学推薦枠」や、過去の教員採用・大学合格実績等の具体的成果を、中学校訪問や保護者向け説明の場で積極的に周知すべきであるとの意見が出された。

〇地元中学生が春野校舎を選ばない背景・課題の分析

・小規模校で育ってきたため「大人数の中で揉まれる経験をさせたい」と考える保護者心理があることや、親の市街地勤務、地域内での雇用選択肢の少なさが地元進学を遠ざけ

る一因になっていると分析があった。

・授業参観等で学校の魅力を強く感じているものの、なぜ地元の中学生が選ばないのかという明確な理由（交通アクセスや就労構造等）を追究・分析する必要性が投げかけられた。

・親が市街地で働いているため部活動終了後の送迎の利便性から市街地の高校が選ばれたり、高校進学のタイミングで家族で市街地へ引っ越してしまったりするケースが多い実態が指摘された。

〇地域住民への意識調査と課題意識の共有

・地元春野中、光が丘中、清竜中からの進学率が 9.2%（過去３年平均）と 10%を切っている現状から、中学生・保護者・教員等を対象としたアンケートを実施し客観的データを収集する計画を説明。

・子育てが終わった世代の住民は春野校舎の存続問題に無関心になりがちであるため、地域全体（全住民）にアンケートや回覧板等で危機感を共有し、幅広く意見を吸い上げることが大切だと強調された。

・過去の野球部応援や運動会・ゲームでの小中高交流のように、地域住民や子どもたちとの接点を増やすことで学校の良さが口コミで広がっていくとの発言があった。

〇小中高の連携および二俣校舎との連携

・小中学校側も児童生徒激減により３～４年後を目途に「幼小中統合」を検討中であり、小中学校だけでなく高校も含めて特色ある学校づくりを模索すべきだとの訴えがあった。

・同一校である二俣校舎との連携（吹奏楽部の合同部活動・コンクール出場や、天竜区「若者会議」での路線バスを利用した校舎間移動等）により、少人数校舎の課題を補い大人数集団のメリット（スケールメリット）を提供する強みがあげられた。

〇通信制高校等との差別化と時代ニーズへの対応

・早い時期に勧誘を行う私立や通信制高校に対し、春野校舎での３年間の学校生活を通じた人間的成長や確実な進路保障（「３年後の出口の姿」）をしっかり示して差別化し、安易な選択に対する公平な進路指導を行う重要性が示された。

６　その他

第３回は１月 22 日に開催する予定である。